

霧ヶ峰の自然

～ 100年先の未来を考えて～

長野県霧ヶ峰自然保護センター作成
平成19年10月

～霧ヶ峰の自然概要～

- 位置
長野県のほぼ中央
諏訪市 茅野市 下諏訪町の
2市1町にまたがる
- 標高
1500mから1900m
- 面積
約3000ha

八ヶ岳中信高原国立公園内に
位置する



わくわくをつぎつぎと

1

～霧ヶ峰の範囲～



わくわくをつぎつぎと

2

～霧ヶ峰の地形～



- 約140万年前 八ヶ岳連峰とほぼ同じく噴火
- 約30万年前 ほぼ現在の地形になる
- 雨などにより侵食を繰り返し、現時のなだらかな稜線になる

わくわくをつぎつぎと

3

～霧ヶ峰の植生～

- 霧ヶ峰には3つの植生に分けることができる



草原



湿原



樹叢 (じゅそう)

多様な生態系が形成されている

わくわくをつぎつぎと

4

～霧ヶ峰の草原～



霧ヶ峰に広がる草原は人間が採草地として
利用し形成されて来た二次草原である。

わくわくをつぎつぎと

5

～日本の草原の面積～

5回自然環境保全基礎調査より
(2001)

大正時代 : 国土の約10%
現在 : 国土の約3.6%



草原が約3分1に減少

～霧ヶ峰の湿原～



八島ヶ原湿原

車山湿原

蹄場湿原

～霧ヶ峰の湿原～

霧ヶ峰湿原は、昭和14年に国の天然記念物に指定されている。特に八島ヶ原湿原は、**1万年**以上かかり現在の姿になっており、高層湿原として本州最南端に位置している。

泥炭層にふくまれる花粉の分析によって古代から現代までの気候の移り変わりを推測することもできる。



～霧ヶ峰の樹叢～

- 岩が多く採草地として不向きな為、昔ながらの森林が残っている場所を樹叢(じゅそう)と呼ぶ樹叢があることで、霧ヶ峰の植物種を豊かにし、また動物の生活の場を提供している。



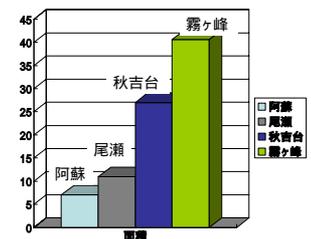
～霧ヶ峰の植物～

- 霧ヶ峰の植物総数 **1218種類**
- " 模式産地(タイプロカリティ) **27種類**
- " 特有の個体群 **6種類**
- キリガミネと名前に付いている種類
- **6種類**

霧ヶ峰特有の環境要因で分化した

～1haあたりの植物種数～

霧ヶ峰の面積	植物種数
約3000ha	1218種
秋吉台の面積 約4502ha	約1200種
尾瀬の面積 約8690ha	918種
阿蘇の面積 約23000ha	1600種



狭い範囲に多様な植物相をもっている

～霧ヶ峰の貴重な花々～

- キリガミネヒオウギアヤマ
(アヤマ科)
CR:絶滅危惧IA類



その他に、
キリガミネアサヒラン
アツモリソウ
ベニバナヤマシャク
など

～絶滅危惧種の割合～

- 日本全体では、**5**種に1種は絶滅危惧種
- 長野県では、**4**種に1種は絶滅危惧種
- 霧ヶ峰では、**9**種に1種は絶滅危惧種

霧ヶ峰では、74種の絶滅危惧の自生が
確認されている。

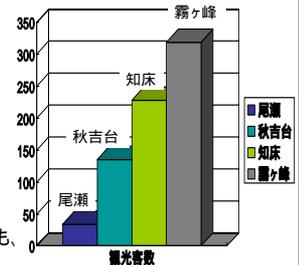
～霧ヶ峰の気象～

- 年間平均気温 **4.3**度
北海道 稚内や根室などと類似する
- 最高の平均 8.9度 8月の最高気温 28
- 最低の平均 0.0度 2月の最低気温 - 24
- 平均風速 4.1m/s
- 平均積雪量 2月時 約1m強
- 年間293日霧を観測した年もある。(1963年)

～霧ヶ峰への観光客～

平成16年には、
324万人の観光客が訪れている。

尾 瀬: 34万人
秋吉台: 135万人
知 床: 228万人



霧ヶ峰は全国の自然公園の中でも、
観光客数が多い部類に入る。

～霧ヶ峰の哺乳類～

長野県に生息している**約8割**にあたる約40種
の哺乳類が確認されている。

近年、ニホンジカが草原に出没するようになり、
ニッコウキスゲの花芽の採食、樹木の剥皮被害
などが懸念されている。



～霧ヶ峰の鳥類～

霧ヶ峰では、39種類の鳥類を確認している。
その多くを占める草原性の鳥類は、全国的な草原
の減少で絶滅の危機に瀕している。

コシキリ
平地(北海道)から亜高山帯(本州)
草原のタイプ
水辺のヨシ原
ススキ、ヨモギ、ヒメジオンなどが茂った
乾いた草原
ススキやヨツバヒヨドリなど丈の高い草
の茂った凹部(霧ヶ峰)



写真データ: 長野県環境保全研究所

～霧ヶ峰のチョウ類～

- 絶滅危惧IB類
- ホシチャバネセセリ スジグロチャバネセセリ
- 絶滅危惧II類
- ゴマシジミ ギンイチモンジセセリ
- 準絶滅危惧
- アカセセリ ミヤマシジミ
- アサマシジミ コヒョウモンモドキ



アサマシジミ

草の減少によって絶滅の危機にある

データ：長野県環境保全研究所

霧ヶ峰の課題

1. 草原の森林化



採草や火入れが行われなくなり昭和33年ごろから草原に木が増え始めた。

草原から森林へと遷移・草原の減少

八島ヶ原湿原周辺の草原植生の変化

空中写真の比較から

1962年



2000年



半自然草原の分布 (294ha 195ha (33%減少))

データ：長野県環境保全研究所

2. 湿原の乾燥化



*周囲からの土砂の流入・草原の森林化
車山湿原などの乾燥化が著しい

天然記念物である貴重な湿原は失われる

3. 踏み込みによる裸地化



ニッコウキスゲへ続く



湿原内へ踏み後が...

*写真撮影などのために草原内へ立ち入る

植物が枯れ、裸地になり、草原が荒れる

4. 渋滞の発生



* ニッコウキスゲのシーズンに発生
排気ガスによる自然への影響
地元の皆さんの足が遠のく

5. 外来種の拡大



* 道路工事や観光客による種子の持ち込み
霧ヶ峰の生態系に悪影響を与える

6. 夜間・早朝の通行



* ビーナスラインを横断するカモシカ
野生動物の交通事故の発生

7. ペットの持ち込み



* 野生動物とペットの間での病気感染の恐れ
野生動物にもペットにも悪影響？

8. ゴミのポイ捨て



* 昔よりもだいぶ少なくなったが、草原に目立つ
自然への悪影響・景観の問題

9. 過剰利用



* 修学旅行やツアーなどの団体客が集中
霧ヶ峰の許容量をこえているのでは？

10. インフラ整備コストの増加



* トイレなどの維持管理には何百万もの費用がかかる
利用者にも負担してもらう必要がある

11. 動植物の採取



* 美しいものや、貴重なものが狙われやすい
絶滅の危機にある種もいる

～今後の取り組みについて～ ビーナスライン沿線の保護と利用のあり方研究会



* 関係者が各課題について話し合う
平成16年3月には提言がまとまった

しかし、実行する会議がなかなか出来なかった

19年度11月より

霧ヶ峰自然環境保全協議会の立ち上げが
決定し、今まさに動きだそうとしている



長野県霧ヶ峰自然環境センター